



更生保護つづき

第3号

令和4年8月 発行

保護観察

1号	12
2号	2
3号	3
4号	11
総数	28
生活環境調整	
刑務所	28
少年院	3
総数	31

令和4年7月現在
 綴喜地区保護司会
 サポートセンター
 京田辺市興戸小毛
 詰18番1
 0774-63-5160
<https://tsudukichikuhogoshikai.jimdosi-te.com/>

「対象者は保護司を選べない」



綴喜地区保護司会

会長 道本 俊規

「生きて、ふたたび保護司 深谷善輔」が昨年11月から全8回、館ひろし主演でNHKにて放送され、また「前科者―新米保護司・阿川佳代」全6回、有村架純主演でWOWOW・日活映画にて放映されました。

それぞれ実写化した社会派ヒューマンドラマであり、罪を犯した人たちの立ち直りを見守り、支える保護司が主役で対象者の更生・社会復帰を目指し奮闘する姿を描いた作品でありました。

この社会において、「生き直す」ことができるのか、時に温かく、時に痛切に問いかけるドラマでありました。

保護司の存在が如何に大切か、保護司の人格が如何に重要か、保護司の取り組み姿勢が如何に対象者のこれからの影響するかが如実に表現されていました。

そして、随所に保護観察のキーワード「居場所」「保護司は対象者を信じること」「信じれば人間変わるか」「生きて生まれ変わる」「反省」「どれだけ更生しても被害者は苦しんでいる」「何が更生か」「再出発の権利はある」「就労支援」

「その人だけに問題があるわけではない」「協力雇用主」「やり直す力」「生き直す」が各回に配置され、特に印象に残ったのは「刑務所を出て、まじめに働いたら罪はなくなるの」でありました。

この時、私たち保護司はなんと答えるのでしょうか？

私たち保護司の能力、保護司の人間力、保護司の対応力が問われるドラマであり、保護司ひとり一人に多くのヒントや教訓が包含されているドラマであったと思います。

対象者は保護司を選べません。

それだけに保護司は日々勉強、日々向上の精神で、対象者に寄り添い、対象者の「立ち直り」、すなわち「生き直す」お手伝いとして改善更生の方向へ指導し、環境を整備して再犯させないようにすることだと思えます。

この環境整備による犯罪予防とは、「割れ窓理論」(建物の窓が壊れているのを放置すると、誰もが注意を払っていないという印象になり、やがてほかの窓もまもなくすべて壊されるとの考え方が名前の由来)や物理的環境と防犯活動を合わせた「環境設計による犯罪予防」に代表される、人の心理的特性を逆手に取った手法で、その効果は世界中で実証されています。

しかし、環境整備だけでは再犯(犯罪)が防止できるわけではありません。

保護司信条

私たち保護司は、社会奉仕の精神をもつて、

- 一 公平と誠実を旨とし、過ちに陥った人たちの更生に尽くします。
- 一 明るい社会を築くため、すべての人々と手を携え、犯罪や非行の予防に努めます。
- 一 常に研鑽に励み、人格識見の向上に努めます。



社会全体が積極的に参加することで得られる「人と人とのつながり」が再犯の機会を奪う特效薬かもしれません。ここに「保護司」の存在価値があるのではないのでしょうか!!



新任保護司の紹介（順不同）

会長 道本 俊規
副会長 藤林 一慶（総務・就労支援）

栗田 省吾（社明・庶務）
田和 利夫（研修・広報・庶務）

監事 奥村 公平
岩田 喜美子
奥西 伊佐男

特任理事 西澤 佳代子（サポートセンター長）

理事 藤田 寿夫（八幡）
（分会长長） 鈴木 俊寛（京田辺）

田中 義孝（井手）
利田 雅孝（宇治田原）



（関連役職）

・京都府薬物乱用防止指導委員

中村 亮（八幡）

小川 京子（井手）

田中 大道（宇治田原）

森本 能文（京田辺）

・社会貢献活動委員

平間 百彦（井手）

北尾 高亨（京田辺）

・「更生保護京都」編集連絡員

田和 利夫（宇治田原）



「私の生い立ちと保護司活動」



北尾 高亨（京田辺）

私は終戦直前、興戸で宇治茶生産農家の三男坊として生まれました。幼少の頃から、宇治茶の摘み取り時期になると、家族全員が早朝より「茶摘みこさん」に茶園畑に来てもらい、茶摘みが2週間程続き、その摘んだ茶葉を自宅で製茶機等を使って製茶になります。

茶畑等で大人に混じって手伝い、遊びを行い色々な世間話、しきたり等を沢山教えて頂きました。

又、小学校に通うようになり父親が町会議員として活動。新しい街の姿、将来展望等を教わりました。

そして、小学校五年生の時、T先生が私のクラス担任、私達が悪いことをすると、すぐ先生に告げられ、時間外に関係者が残され、説教された思い出があります。（良く注意して下さいました。）

そして昭和38年電気通信関係事業に従事しました。その時「秘密の保護」の重要性について感じました。

そして結婚。妻は地域の民生委員に選ばれ、その後、私は会社を退職。区長、小学校の評議員、交通安全推進委員等に従事致しました。

妻が民生委員の頃、ある夏の夕方、暑いので散歩でも行かないか、と誘われ、住宅街に行き、公園で休憩しそのまま帰宅しました。

後日その訳を聞くと、小学生の〇〇さんの家庭環境を見に行つたとの事。「平素から話を聞

令和4年5月委嘱



都築 光彦（八幡）

初めまして！この度、保護司の仲間入りをさせて頂きありがとうございます。高校3年間を含み、その後5年ほど大阪にてBBS活動をしておりました。一昨年、定年延長満了にて日野自動車退職し今現在、京田辺市立桃園小学校にて留守家庭児童会に勤務させて頂いております。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



田川 房子（宇治田原）

この度、保護司として活動させて頂くことになりました。宇治田原で子供たちによる活動のサポートボランティアをしています。ご指導のほど、よろしくお願い致します。



西田 祥子（宇治田原）

この度、保護司として活動させて頂くことになりました。研修を積み重ねていく

くだけでは駄目、日常の生活状況を知ることが大切だと再確認。

今迄私が保護司に拝命される前に先輩等から教えて頂いた体験等を述べさせて頂きましたが、そのことを念頭に、保護司活動に役立てようと誓いました。

そして、竹馬の友の紹介で平成21年5月「保護司に任命」現在「特例の再任保護司」としてお世話になっております。

今迄保護司として活動するのに常に心がける事は、保護観察等で、保護司宅に来訪しても



らう場合、その家の近所に対象者の知人等も住んで居ると考えられる場合があるので、その時は、〇〇さんのお使いで行った等、平素から対象者に伝えおくことが大切。

バイクの窃盗で担当。本人は初めお爺お婆ちゃん宅で生活していましたが、父親が厳格な人で、門限は夜の7時で、帰宅しないときは入室拒否（父親の指示により）されました。

父親の居住地に赴いて息子の居住を依頼。帰宅時の門限をもっと柔軟に考えて頂けないかと話し合いましたが駄目。

とともに、先輩の保護司の方々から学びながら、少しでも社会の役に立てるよう、頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

令和4年5月特例再任

道上 幸彦（八幡）
吉村 幸夫（八幡）

綴喜地区保護司充足率

101.7%

八幡 28-27
京田辺 16-16
井手 9-9
宇治田原 8-8

令和4年5月現在

研修関連

【第2期定期研修】（9月16日）

・第4次犯罪被害者等基本計画を踏まえた更生保護の在り方について

京田辺市立社会福祉センター

【京都府保護司会連合会特別研修会】

（11月8日）

・依存症支援に必要なこと

ホテルグランヴィア京都

さんさん山城

（パブリックビューイング）



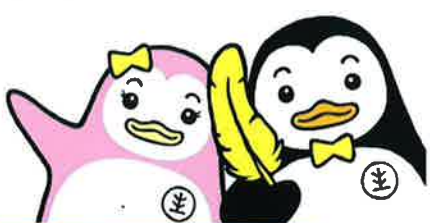
それ迄深夜喫茶等で宿泊していました。

そして、対象者の友達等を聞き出し、その家族に理由を話して数か月宿泊させ、その間、父親と話し合いアパートを借りてもらい入居。ひと安心。

今迄保護観察、生活環境調整を担当させて頂きましたが、幸いにも対象者は処遇に関して基本的な事項について、ルールを守り良好な解除で保護観察を終ってくれました。

少年等犯罪、非行に走る要因は少年はもとより家庭環境にあると考えます。

中学生時代が特に大切な時期であり、少年の行動については特に学校との情報の共有、友達からの情報も大切です。



大御堂観音寺

参道横の菜の花畑



「映画紹介」



奥村 公平（八幡）

紹介する映画は、「すばらしき世界」である。
脚本監督 西川美和 主演 役所広司
主人公の三上正夫（山川一）は、平成16年（実
際は昭和61年2月19日）に殺人の刑期を満
了、旭川刑務所を出所、社会復帰の第一歩を4
4歳で踏み出す。少年の頃から犯罪を重ね、前
科10犯6入、人生の多く（13年間）を刑務
所で過ごしてきた。

原作は「身分帳」

原作は、佐木隆三のノンフィクション小説「身
分帳」である。原作は、括弧の中の通り昭和の
戦後が舞台であるが、映画では平成の時代に変
えている。佐木隆三は76年に「復讐するは我
にあり」で直木賞を受賞している。91年に「身
分帳」で伊藤整文学賞を受賞、犯罪をテーマに
してきた数少ない作家である。佐木は山川に深
く入り込んで、取材を重ねている。山川は、戦
災孤児であり、戸籍の父母親欄は、空白である。
主人公は手がかりの少ない中、母親が生きた
痕跡を求め歩く姿には、胸が痛くなる。

絶版ノンフィクションを映画化

この、絶版になっていた原作を見出し、見事
な映像作品に仕上げたのが西川美和である。

震災後に福島から吉原、博多と流れてきた風
俗嬢に「あと半年したら、預けている子どもと暮
らすつもり」としみじみと語らせている。

脚本をも手掛けた西川美和が描きたかった平
成から令和の時代の女性像がここに現れている
ように思えた。独り立ちし、男性を圧倒する強さ
と優しさを持ち、そして、世の中を見据えてい
る。

いくつかの男性像 ― 作家の心に灯がともる

原作者の佐木隆三を投影しているのが、作家
津之田（仲野大賀）なのだろう。主人公に徐々
に入り込んでいき、心境に変化がもたらされる様
子を仲野が好演している。

主人公三上の最期は、心優しき職場仲間のプ
レゼントのコスモスを握りしめたまま、動きが
止まり、そして、映像は東京の青空に反転する。

「身分帳」も「すばらしき世界」もお勧めである

映画「すばらしき世界」は、DVD購入もしく
はレンタル、ネット配信でも観ることができる。
原作「身分帳」を読んでから、「すばらしき世
界」を観ると、もう一つ深い味わい方ができるよ
うに思う。

保護司としての立場でみるならば

これまで対象者が過ごしてきた人生を理解
し、思いに共感することがあったとしても、絶え

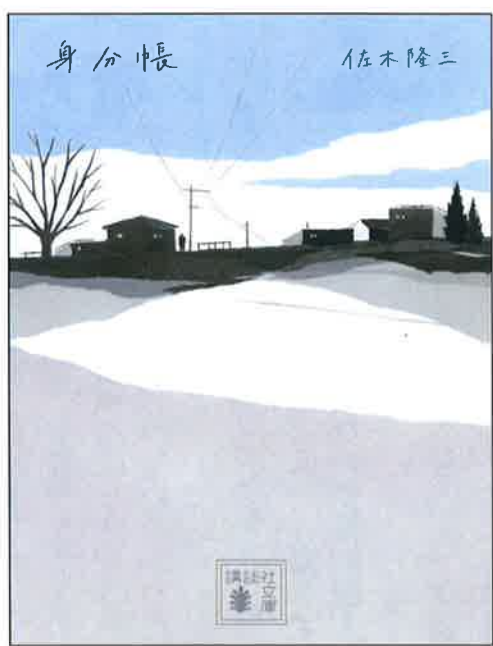
西川も彼の人生に寄り添い、丁寧な取材を
重ね、刑務所が保管する身分帳（被收容者身
分帳簿）なるものが実在することを確かめて
いる。本人ですら閲覧が不可能な身分帳を主
人公は、どうしてその情報を手に入れたのか。
彼は刑務官への傷害で法廷に提出された検
察資料を被疑者の権利として閲覧し、メモを
とり、自分の人生を綴った貴重な資料として
残した。

西川は、「更生保護」2021年9月号に『身
分帳』を映画にすると題して、随想を寄稿し
ている。私がこれらの作品を知るきっかけは、
9月号に触れ、「身分帳」を読み、「すばらし
き世界」を観た保護司仲間からの紹介による。

いい人との出会い

さて、映画「すばらしき世界」であるが、出
所後の主人公は、社会生活に馴染んでいくた
めにいくつもの壁にぶち当たる。車の免許の
更新、食料品の買い物、ゴミ出しや近所づき
あい、極々普通のことだが、彼には困難の連続
となる。彼のデリカシーでは、許せないでき
ごとと我慢が強いられる。ドラマには、身元
引受人の弁護士（橋爪功）、弁護士の妻（梶芽
衣子）ケースワーカー（北村有起哉）、コンビ
ニの店長（六角精児）、テレビ局のディレクタ
ー（長澤まさみ）、売れない作家（仲野大賀）
などなど、彼を助ける「いい人」に出会い、絶
えずストレスを抱えながらも彼の日常が作ら
れていくさまが描かれている。しかし、不思
議と彼には、理不尽で許せない出来事、心の

ず一定に距離を保ち、対象者の立ち直りを支
援していくことが保護司としての役割とすれ
ば、このケースは多くの示唆を与えてくれる。



「振り返ってみて」



平間 百彦（井手）

私には3人の息子がいますが、長男が小学
校へ入学すると、子供会や育友会活動の始ま
りとなりました。子供が3人いるので次から
次へと入学します。そのため小学校では地域
委員、学級委員、本部役員、子供会会長や地域
の活動として親睦会の会長等も務めてしまし
た。

しばらくして長男が中学校へ入学すると、
また小学校と同じパターンになり、三男が入
学の時には育友会長を引き受けることになり
ました。さあ大変。

琴線に触れる出来事が待っている。
作品に引き込まれ、彼の中で根っこしてい
る正義感に共感し、感受性に共鳴してしまうと
「暴力性」を肯定できてしまう魅力がこの作品
は持っている。



すばらしき世界 Blu-ray&DVD／バンダイナムコフィルムワークス

©佐木隆三／2021「すばらしき世界」製作委員会

舞台は昭和ではなく、なぜ平成なのか

作品に触れて最初に思った疑問が「なぜ平成
か」である。

長澤まさみ演じる局ディレクターは、ビデオ
を回すことに怖くなった作家（仲野大賀）に「身
体はって喧嘩を止めるか、撮るに徹して視聴者
に伝えるか、覚悟をはっきりさせろ」と怒鳴り
つける。

博多のやくざの親分の女将さん（キムラ緑
子）は「もうやくざでは食ってはいかれん。銀
行口座つくれん。子どもを幼稚園に入れること
もでけへん」と、主人公に反社勢力に戻っては
いけないと諭す。

入学式では祝辞を述べなければなりません。
祝辞を考えるのに苦労した。その後、育友会の
総会とか各種委員会で挨拶はしていたが、体育
大会と卒業式も大変だった。

もう学校には関わりたくないと思っていたと
ころ、3人の子供は城陽高校へ次から次へと入
学。高校ではPTAの名称になっていたが、高校
でも進路委員長や副会長を引き受ける事になっ
た。高校では連続4年間務めた。小学校と中学校
は役が重複していた時期もあったので高校修了
まで10年間務めた。

また思い出に残る事もあった。授業参観を見
に行ったときである。

先生は女性。うしろから見ていると息子は先
生の話を聞かず、隣の席の女の子と話をしてい
た。私はムカッとしたので親が多くいるのも気
にせず息子の席まで行き先生の話を聞けと怒っ
た。先生は困惑していた。

城陽高校で三者面談がありました。通常は先
生、生徒、母親で面談しますが、息子が「担任の
先生は美人やで」と言うので私も参加すると学
校へ行った。

先生には「息子が担任の先生は美人やでと言
うもんで私も来ました」と言ったら先生は「まあ
お父さんまで来ていただいて」と大変喜んで4
者面談をした。高校の文化祭は9月上旬に3
日間開催される。私の担当する進路委員会では
カレーを作る事になった。私は委員長でもある
ので3日間会社を休んで参加した。

振り返ってみると色々あったが学校に関わっ
ていたお陰で子供は素直に成長したと思う。

・保護司の話になりますが、私が会社を定年退職する数ヶ月前によく知っている近所の方が来しました。「もうすぐ定年やね。あんたが定年になるのを待っていたんや。」

「実は私は保護司をしているが私も定年になるので保護司をお願いに来た」と言う。

私はこの方が保護司をしていることも、保護司という言葉も初めて聞いた。

保護司の説明を聞いてみると、「これは大変や断ろう」と考えていたが、その保護司さんはいかんのや。あんたやから頼むのや」と。そう言われたら断れなくなつてその場で引き受けることにした。

そして平成17年11月に委嘱を受けました。それから6年後、井手分区長となり作文依頼や杜明などで学校に行くことになり、平成24年頃から中学校の行事にも参加することになる。

参加行事は入学式、非行、薬物乱用防止教室、体育大会、卒業式などである。

子供が在学中はよく行つたが卒業すると関係ないと思つていた。

しかし人生はそんな単純なものではない。お陰で孫の修学式から卒業式まで参加することができた。



「出版物の紹介」



姫路 桂子(京田辺)

「矯正という仕事」

女性初の法務省矯正局長37年間の軌跡

著者 名執 雅子



「保護司」と名乗るには気恥ずかし、研修を受けても十分理解したとは言いがたい。

対象者には自分なりの寄り添い方を考え、再犯を犯すことなく社会の一員となつて貰いたいと願っているが、これで良かったと思える自信は全く無い。

そんな時に目にしたこの一冊。「人はなぜ犯罪に至るのか。この社会から犯罪を無くすにはどうしたらよいのか。」はしがきの冒頭に書かれてあり、すぐさま図書館のカウンターに差し出した。

この本の中には、大きく二つ書かれている。一つ目は、女性ならではの視点から見た組織

「保護司になつて」



利田 雅孝(宇治田原)

今から20何年前に先輩保護司の先生がお二人保護司の勧誘にこられました。

私としては保護司に関する知識も何も持ち合わせがありませんでした。勧誘に来られた先輩保護司の先生は幼稚園の恩師でした。ただ言われるがままに何も考えずに承諾しました。

幸い保護司になつてしばらくの期間は保護観察対象者も、環境調整することもなく大変楽に過ごすことができたのですが、初めて保護司としての仕事ができしたのは、2、3年がたった時でした。

観察所から環境調整の依頼がきました。研修の時に教えてもらったはずなのにすっかり忘れてしまつて、それから勉強し直しました。引受人と面会しても肝心なことを聞き忘れたり、対象者の状況が頭に入っていなかったりで散々でした。

結局出所後は保護観察担当になりました。初めての対象者は自分をどんどん勉強させてくれました。何せ私の知らない世界を教えてくださいました。

それから、交通、殺人未遂、性犯罪、窃盗等未成年者から、そこそこの年齢の大人まで色々な対象者の担当をしました。

瞬間的に対象者が五人となった時もあり、報告書の記入が期限に遅れて観察所に迷惑をかけたこと。

改革に尽力された結果、今の女性の働き方改革となり、刑務所内の環境改善や刑務官・職員が職務に使命感を持ち風通しの良い職場となるよう環境づくりがなされたこと。

二つ目は、2002(平成14)年11月、名古屋刑務所の刑務官5人が受刑者を死傷させる事件が起こり、100年ぶりの監獄法改正に伴う様々な行刑改革がなされた。

その間を只只走つてこられた著者が、真つ向から立ち向かい再犯を無くして社会を良くしていこうという熱い思いの矯正局の方々の努力の積み重ねが、今の保護司として対応させて貰っている開かれた矯正社会を作り上げられたこと。

これらの事が、仕事として取り組んでこられた部分だけでなく、37年という月日の中には誰しも経験するであろう挫折もあり、女性ならではの出産・育児・子育てもこなしながら、怯むことなく歩んでこられた道のりは実に興味深く感激する。

私は、この本から今まで知らなかった矯正という仕事の本質は「誰一人として取り残さない偏見や差別の無い社会」現代を生きる私たちが担っていく方向と同じだと感じている。

人に本気で向き合う、人を本気で愛する(受容することから生まれるエネルギー、その「エネルギー」こそが組織を動かし社会を変えていく、という事を実践されてきた著者の素晴らしい生き方に感銘を受けいつまでも拍手を送りたい気分になった。

・この本に出会ってから、毎日のように掲載さ

たこともありました。

いずれにせよ、今まで経験したことのない世界で、色々な分野の勉強ができることが自分にとって視野を広げるチャンスでした。

今後も更生保護活動に対して前向きに真剣に取り組んでいきたいと思うところです。また、初めて刑務所、少年院等を訪問して感じたことは、居場所を確保することの大切さ、家庭環境の大切さであります。

誰もが安心して安全に暮らせる社会の実現のために微力ながらこれからも努力しようと思つています。

←正寿院

猪目窓と天井画



猿丸神社→

“こぶ取りの神”のいわれは
瘤・でき物や身体の腫物の
病気を癒す霊験があるとか。



れている新聞の社会面での犯罪に関する記事にも目がいき、しつかり読み込むようになった。

先日は「看守の信念」城山真一著 という本を社会面担当の記者が推薦してくれる

「・・・記者が選ぶ・・・」というコーナーに気付いた。

推薦文の一説を紹介する。

「受刑者が文通しているというジャズシンガーの女は、単なる受刑者の作り話か実在するのかーなど、不可解な出来事やトラブル対応にあたる刑務官らの姿を描いた連作短編集」とある。

人間ドラマとしても読み応えがある、とも記しているのでぜひ読んでみようと思つている。

今まで自主的に手にとってこなかった本に出会い、開かれた矯正や受刑者が社会に受け入れられ再犯無く社会の一員として過ごせる出口支援に、多くの方々の熱い思いがあることが分かり、微力ながらも自分に出れることをコツコツやつていこうと思つている。



令和4年度 綴喜地区保護司会 定期総会

京田辺市立社会福祉センターで3年ぶりに定期総会が執り行われました。

令和4年5月12日

京都保護観察所長をはじめ多くの来賓のご祝

辞も頂戴するなか、事業報告、事業計画、会計報告など無事ご承認頂きました。

この紙面をお借りして会員の皆様の御協力頂いたこと御礼申し上げます。



さんさん山城 防災訓練

令和4年6月15日

さんさん山城、宇治児童相談所と合同の防災訓練が行われました。

保護司会からは

道本会長、田和副

会長、西澤サポー

トセンター長の3

名が参加しました。

(西澤センター長

による消火器放水

訓練です)



令和4年度 京都府保護司会連合会

ブロック別研修会

去る5月18日に京田辺市立社会福祉センターで行われました。

綴喜・宇治・相楽・乙訓の4地区が「各地区のICTの現状と今後の取り組みについて」というテーマで発表を行いました。

綴喜地区は田和副会長がパワーポイントを使って発表されました。

また京都保護観察所 芝崎 真琴統括保護観察官より講演がありました。

令和4年度 業務重点事項にも「更生保護行政のDXの推進」と提起されていることや、本研修会における各地区の現状に鑑み、綴喜地区保護司会といたしましても、これを契機に「LINE」での連絡網の構築や業務の効率化など、ICTの活用を積極的に進めていくことを決定いたしました。

「ICT化の現状と取り組みについて」

京都保護観察所

芝崎 真琴 統括保護観察官



自宅以外での面接場所の確保

令和4年度 業務重点事項にも明記されている「自宅以外での面接場所の確保」に関して、宇治田原分区会では地元自治体への度重なる要望の結果、自治体の協力が得られ、自治体施設2カ所を保護司活動(対象者との面接も含む)への使用許可が決定したことを京都保護観察所へ報告いたしました。

来訪困難を理由に保護司候補者とならなかった事実の解消にも繋がります。

編集後記

今年度は3年ぶりに定期総会を開催することができました。久しぶりに会員の皆さんの元気なお姿を見ることができ安心したところです。

一昨年には保護司確保重点地区に指定されましたが、この5月で100%を超すことができました。

本誌で面白い話題をお知らせできることは編集者としても喜びです。

本号ではTV番組や映画、また出版物の紹介があり、それぞれ保護司としての考え方や取り組みに影響を与えるものでした。

ちなみに映画ポスターや書物写真はそれぞれ掲載許諾を得ていますのでご安心ください。

次号も会員みなさまの寄稿をお待ちしています。

(編集担当 南部・田和)

